

脳梗塞の治療は時間が勝負

今回は脳神経外科部長で、日本脳神経外科専門医・日本脳卒中学会専門医の河合辰典医師に「脳梗塞の治療は時間が勝負」について伺いました。



▲河合 辰典 医師

じまり、通常は数時間で

脳梗塞におちいります。

一度死んでしまった脳

細胞が復活することは

一度とありません。言い

換えると、脳細胞が死ん

でしまう前に血流を再

開させて脳細胞を回復

させられるかどうか、が

非常に大事ということ

です。

発症早期（4～5時

間以内）の脳梗塞に対し

て、以前からtPAと

いう血栓溶解剤を静脈

投与する治療が行われ

てきましたが、再開通率

は決して高いものでは

なく、多くの場合は脳

梗塞を免れません。し

た。今の早期治療の主

体は「脳血栓回収療法」

で、カテーテルを用いて

詰まった血栓を直接除

去する血管内手術です。

発症から6時間以内が

基本対象で、約80～90%

の確率で開通させるこ

とができるようになって

きていて、当院でも積

極的に導入しています。

この治療の登場によ

り再開通率は飛躍的に

伸びたものの、後遺症が

残る人の割合は思うよ

うに減っていないのが

現状で、この最大の要因

は、発症してから診断治

療を開始するまでの時間です。血管が再開通しても時間的に手遅れでは、回復までは望めません。「脳血栓回収療法」を受けられるために、脳梗塞の治療は時間が勝負です。

社会福祉法人



恩賜財団

済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1番6号

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>

☎0898-47-2500

